

科目名	NGO・NPO特論			コード	G120700			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	2	1・2	前期				
担当者名	金子 和夫							
授業概要								
わが国の地方都市・農産漁村等の地域社会における住民を含めた地域の多様な主体が参加した「地域づくり」の取り組みの実践に学ぶ。とくに、地域に根ざした NGOやNPO、さらに多数の住民団体の交流と支援をおこなっている「さぼらんて」や「県民活動支援センター」等の活動の現場を地域の人々とともに訪れて、地域づくりの理論と実践の両面を学ぶ。さらに、地域からの国際的な交流や支援にとりくんでいる NGO・NPOの実態に触れることで、地域の国際化に対応している先進事例を学ぶ。大学と地域の NGO・NPOとの接点として「さぼらんて」や「県民活動支援センター」を講義の場所として選ぶ地域開放型授業。								
到達目標				成績評価の方法と基準				
NGOやNPOの現場にたつて、地域の問題解決や地域の国際化に向けた取り組みを学ぶ。とくに、それぞれの団体の夢と悩みに共感しながら、利益を出すことを主眼とするのでない組織のを実際に運営していくためのノウハウをつかむ。				ワークショップへの出席と発言。それぞれの団体の現場へのインターンシップ的な参加。学んだ結果をレポートにまとめ、それぞれの団体との相談のうえ適切な方法で公開する。				
学習目標		評価項目と割合						
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) NGOとNPOの違いと共通点がわかる	10	10	0	0	0	0	0	0
(2) 地域課題にとりくむ基本姿勢を学ぶ	40	20	0	20	0	0	0	0
(3) NGO・NPOの現場で学ぶ	30	10	0	20	0	0	0	0
(4) 学んだことをわかりやすく伝える	20	0	0	0	10	10	0	0
授業の項目と内容				自主学習課題				
<p>現在の予定では、集中講義、合宿形式をとる。夜の部での地域の人々との交流と意見交換を重視して、1泊2日の合宿形式で授業を行う。1日目は、昼から始め、午後3コマ、夜の部2コマ(1コマは90分) 2日目は、朝から夕方まで5コマ分、合計10コマの授業を実施する。</p> <p>残る5コマ分については、受講生による実習とする。具体的には、NGO・NPOでの実習を半日(3コマ分)以上経験させていただき、大学院生とNGO・NPOのメンバーが協同して、地域づくりや国際交流の課題への挑戦を行う。具体的には、地域や国際社会のニーズやNGO・NPOの要望に添って進めるが、たとえば、広報リーフレットの作成、ホームページの更新、留学生の場合は、そのコミュニケーション能力を生かした新たな広報のあり方の模索など、具体的に結果が見えるものを作り上げることを目指す。できる限り大学院教員が、巡回指導を行うものとする。</p> <p>最後の2コマは、実習の成果発表会にあてる。これは、市内の適当な会場を借りて実施するものとする。</p> <p>集中講義部分の10回分については、金子講師および「さぼらんて」「県民活動支援センター」とも相談してワークショップ形式および、道場門前を中心とした簡単なフィールドワークを取り入れたものとしてこれから詳細を詰めていくが、1日目は、アイスブレイキングに続いて、NGO・NPO・中間法人などの具体例を学び、夜の部での交流で、大学院生とNGO・NPOのマッチングがおこなう。翌日は、大学院生と地域の受講者が組んで、フィールドワークやワークショップ課題に取り組むなどの方法を提案していく予定</p>				<p>来年度にむけて、いろいろ具体的に提案してくださればありがたいとおもいます。1年間かけて、学生たちが自分で準備してつくっていく授業になれば、どんなにユニークなものになるでしょう。</p> <p>ご提案の受付は、安溪遊地まで ankei@fis.ypu.jp (@を半角にして送信)</p>				

である。	
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
使わない。現場が学校、地元が先生。	2007年度は開講しない。2008年度からの隔年開講。現在の予定では、前期における集中講義として位置づけている。土日を生かすか、あるいは夏休みを利用して実施する。
受講生へのメッセージ	
地域のリーダーと行なうユニークな授業。キャンパスの外でのワークショップ型授業で地域の人々と共に学ぶ楽しみをあげよう。	